

“選べる5つの採用コース”できっと見つかる価値ある制度

# 確定拠出年金の活用方法

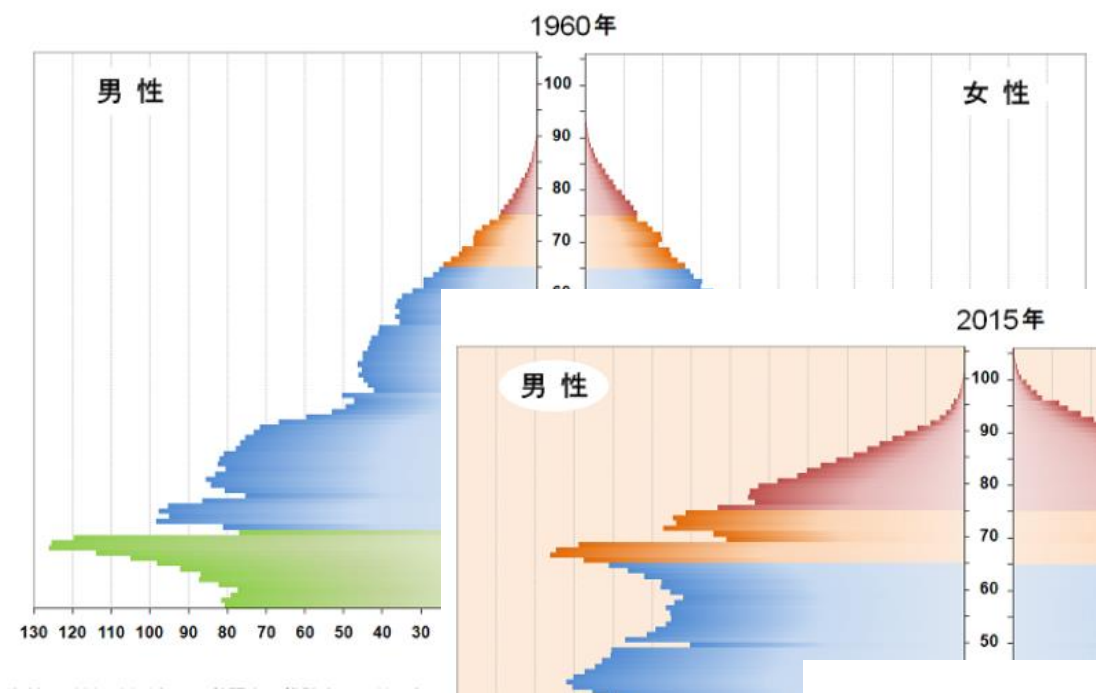
～ “社保料適正化もバックアップ” で  
“こんなことができるんだ！” の新発見！

2016年4月

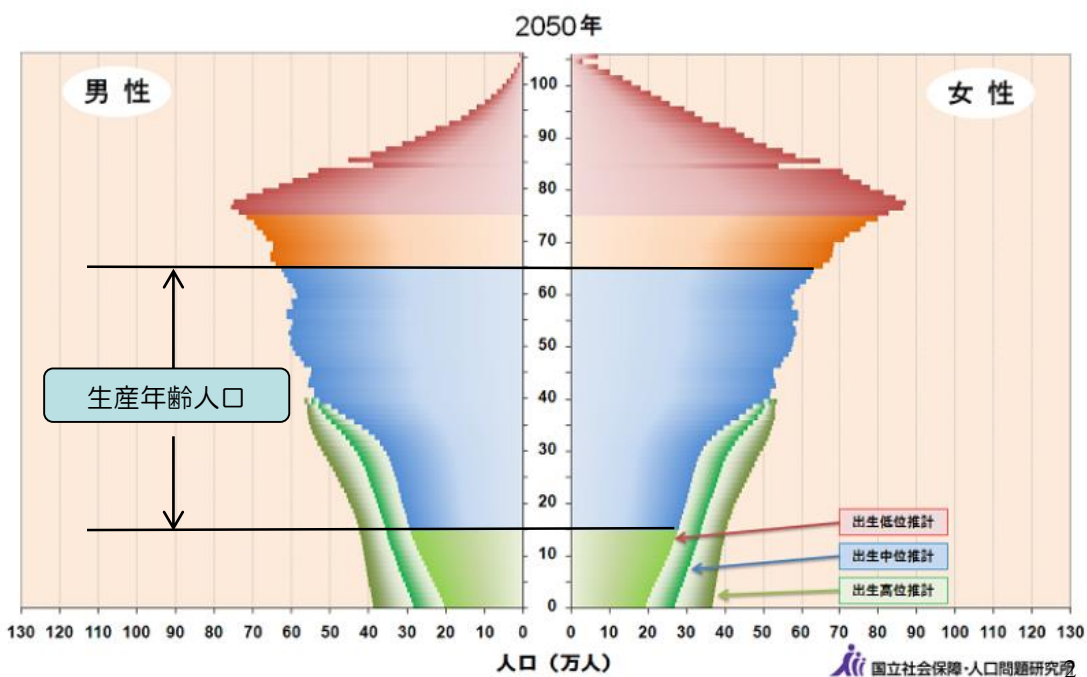
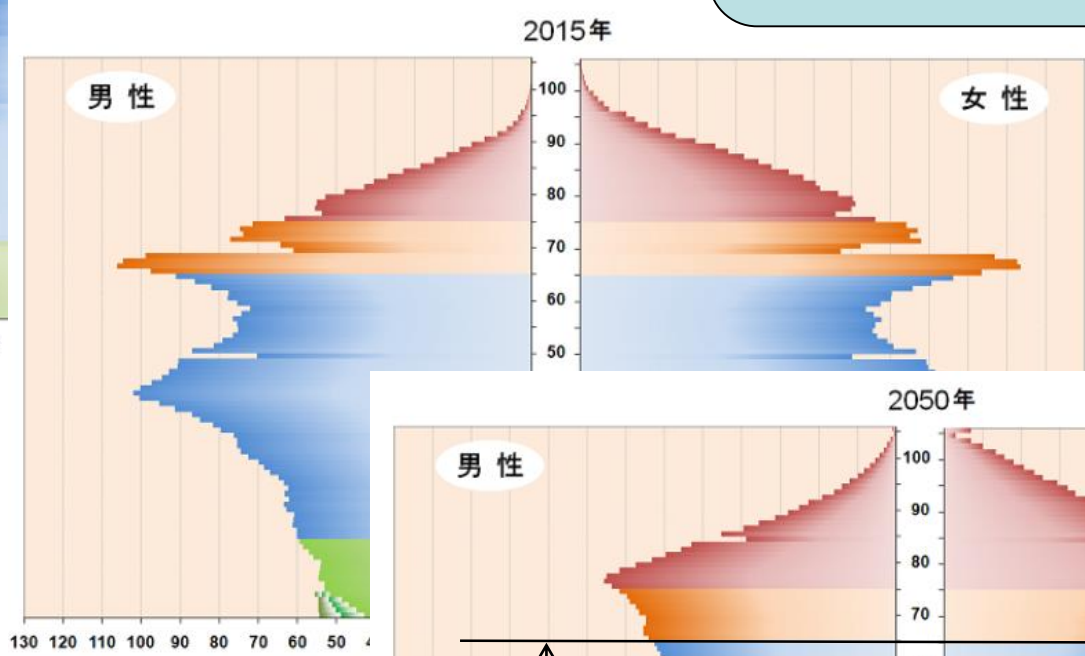
ファイナンシャルプランナー 小島淳一

時代が  
確定拠出年金を  
求めています

# 確定拠出年金の時代① ～人口構造は社会保障の危機的状況を示しています



- 人口構造は劇的に変化してきました
- 人口は2007年から減少しています
- 生産年齢人口割合も低下しています
- もはやピラミッドとはいえません



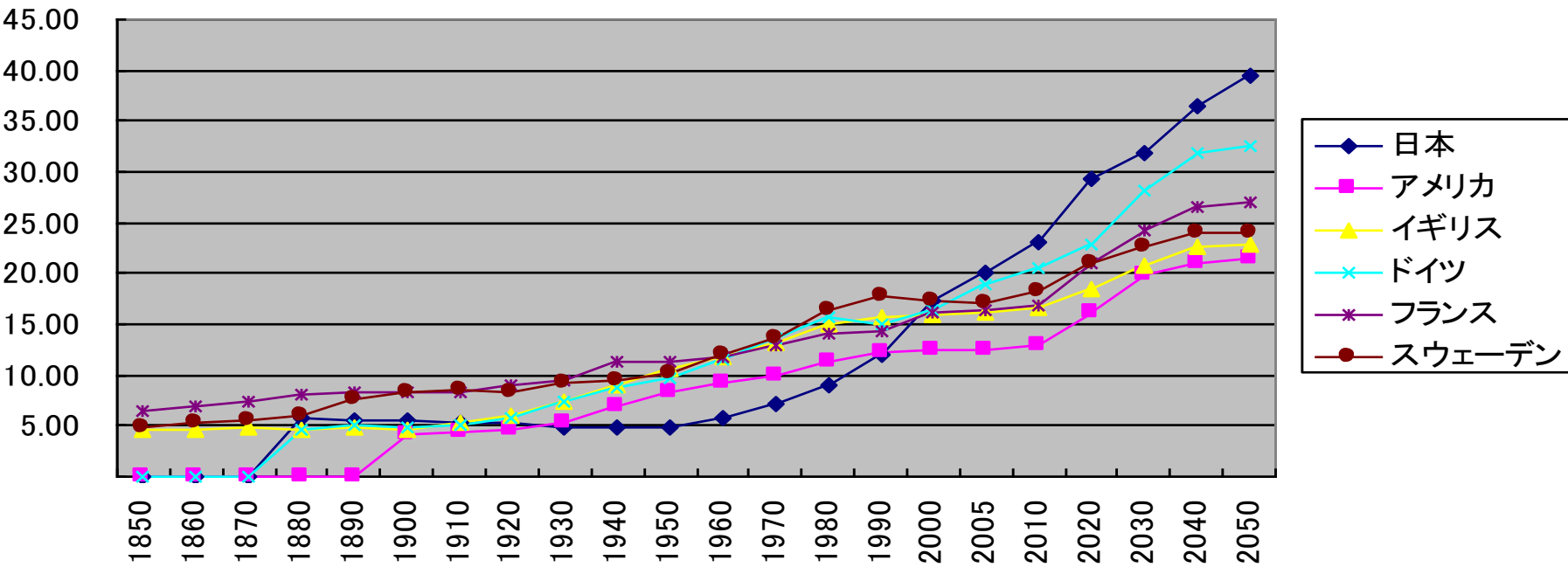
- 人口構造は一朝一夕には変化しません
- 出生率も横ばいで構造変化も期待薄です
- 仮に出生率が急上昇しても社会保障制度への貢献は数十年後からになります
- 人口構造からは何も期待できません

# 確定拠出年金の時代② ～ “世界でもトップを独走” の高齢化レース

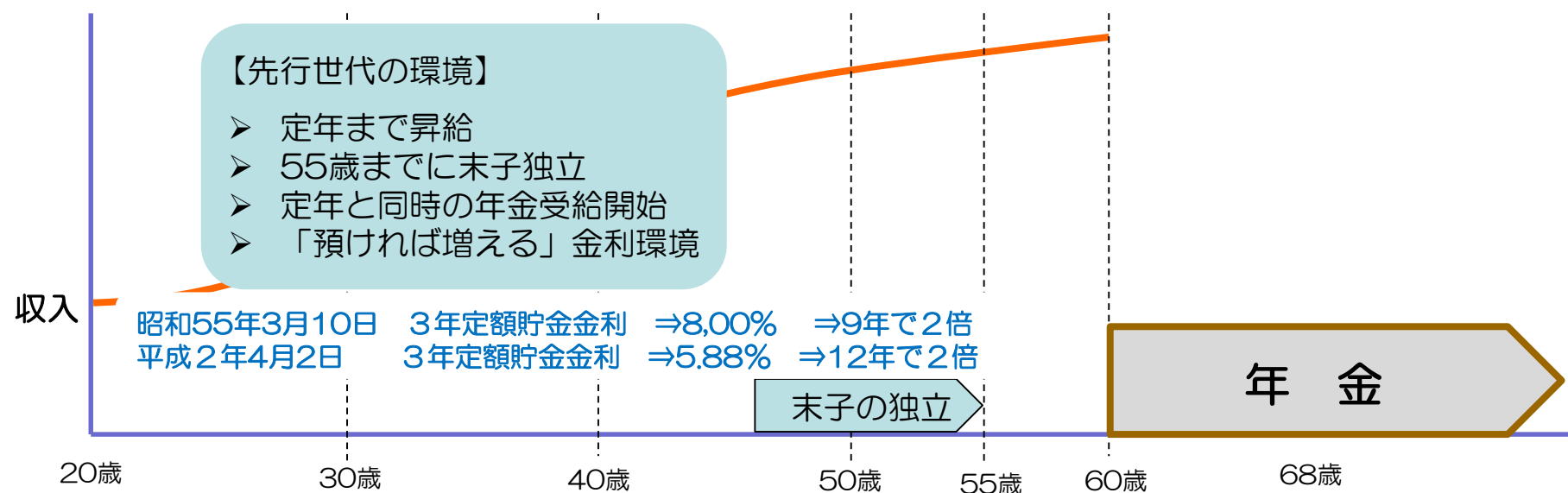
先進国ほど少子高齢化が進むとのことですが、わが国は過去20年で諸外国を引き離し先頭を疾走中です。下表は人口に占める65歳以上の割合。 一目瞭然です。

	日本	米国	英国	独国	仏国	スウェーデン
1990年	12.08	12.34	15.73	14.96	14.20	17.78
2010年	23.13	12.96	16.59	20.47	16.96	18.32
2030年	31.82	19.76	20.86	28.22	24.25	22.63
2050年	39.56	21.57	22.87	32.48	26.91	24.09

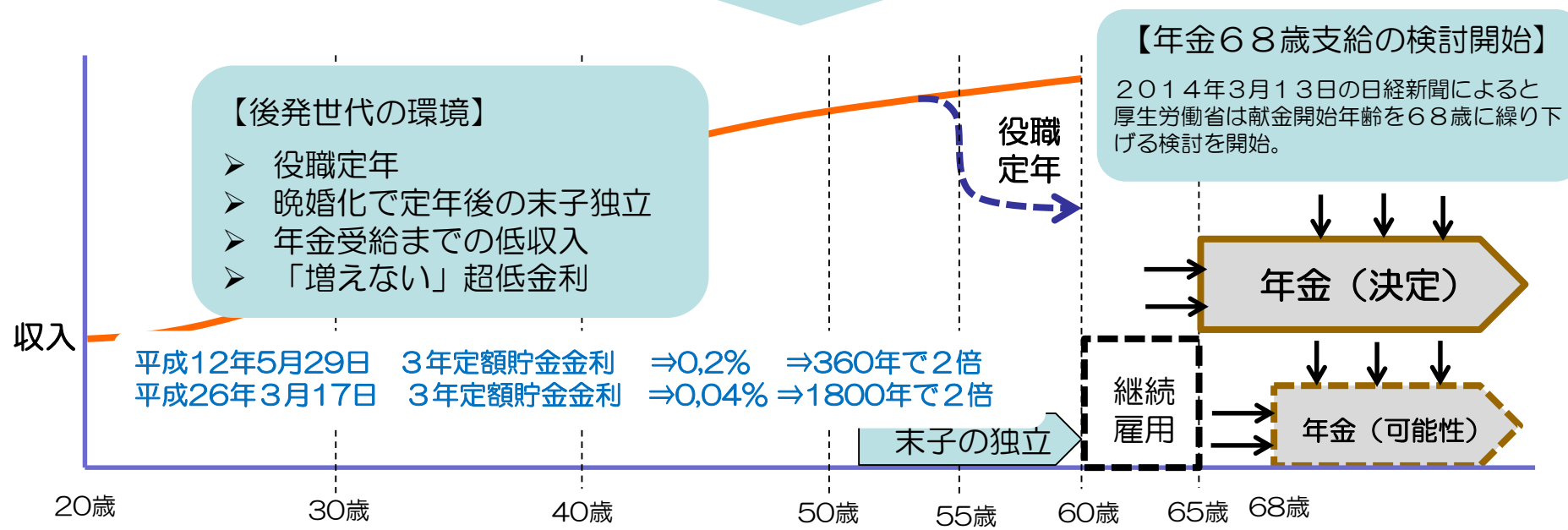
高齢化率の国際比較



# 確定拠出年金の時代③ ～変わるライフプランニング “昔と今”



「生涯賃金」「年金総額」「預貯金金利低下」のトリプル減少で生涯収支に赤信号！



確定拠出年金の時代④ ～増え続ける社会保障負担は終わりが見えない・・・

●わが国の年金制度は賦課制度⇒持続的な人口増加が前提なのです！

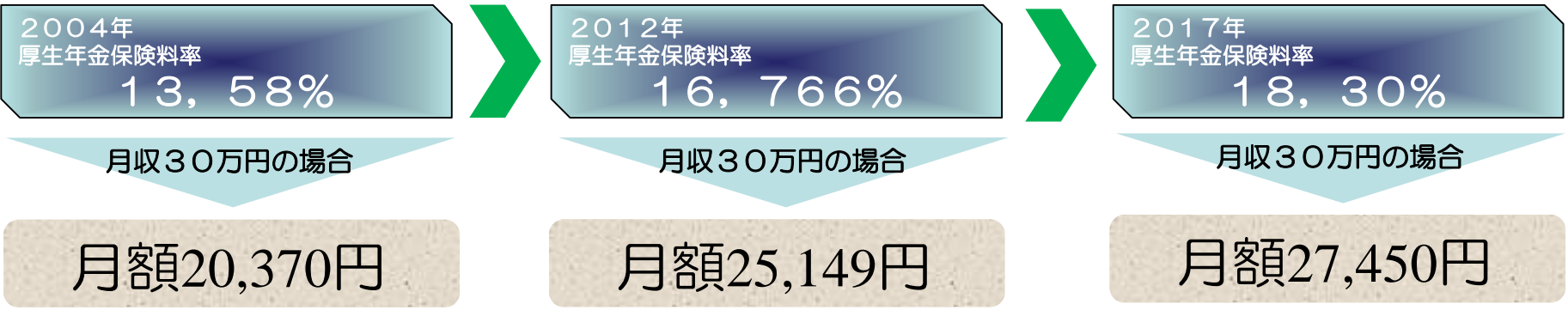


出所: 国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口(中位)』

●年金・健康保険などの社会保障給付費は100兆円を突破しました！



●厚生年金保険料も引上げの一途です（2004年から2017年度まで毎年0.354%の計画増率）



# 確定拠出年金の時代⑤ ～重圧のかかる社会保険料 いったいどこまで？

## 《主な社会保険の種類・保険料率》

名称	賦課対象	改定時期	保険料率の推移（％）				
			H21	H23	H25	H26	H29
厚生年金保険	標準報酬月額・標準賞与額	9月	15,704	16,412	17,120	17,474	18,300
健康保険	標準報酬月額・標準賞与額	3月	8,18	9.48	9.97	9,97	???
介護保険	標準報酬月額・標準賞与額	3月	1,19	1.51	1.55	1,72	???
			25,074	27,402	28,640	29,154	???

※このほか、「児童手当拠出金」があります  
※「労災保険」「雇用保険」は労働保険料として上記とは別に必要となります

## 《社会保険料の負担方法・保険料》

- 社会保険料は上記保険料率で産出された金額を労使で折半し負担します
- 算式：「標準報酬月額×保険料率÷2」を労使それぞれが負担します

【H26年9月～ 計算例】

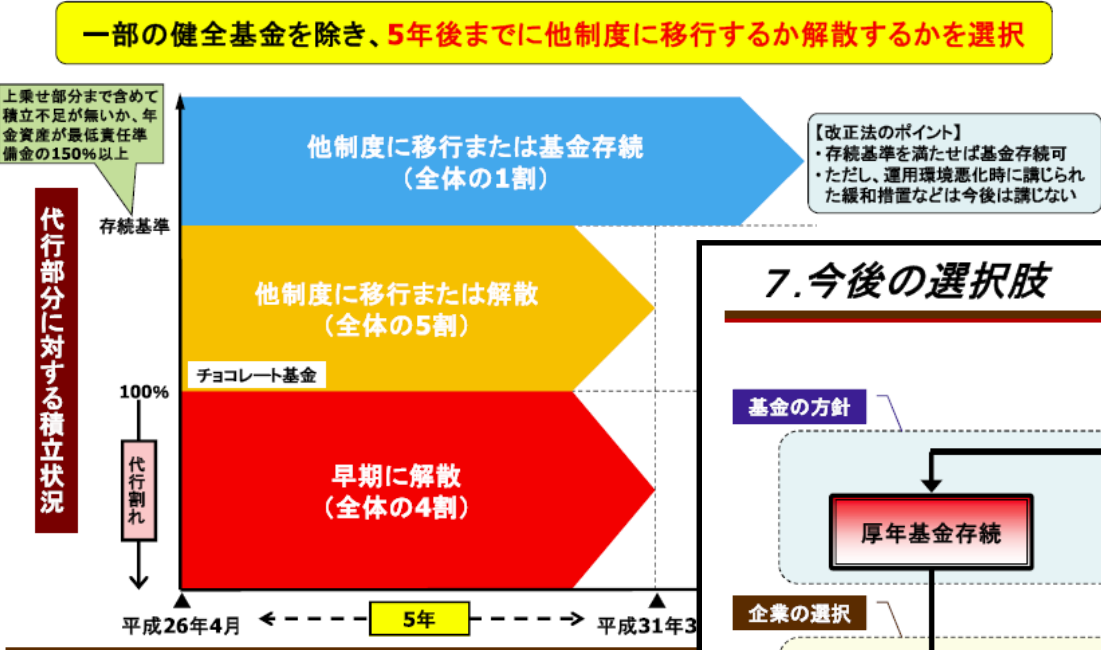
標準報酬月額300,000円×29,154%÷2=43,731円

- つまり、標準報酬月額30万円の社員1名に対し、会社は毎月43,731円を負担します
- もちろん社員本人も、同額の43,731円を負担します
- 労使それぞれで「年間524,772円」の負担です
- 月収30万円の社員を20名雇用している場合、企業負担は年間10,495,440円です

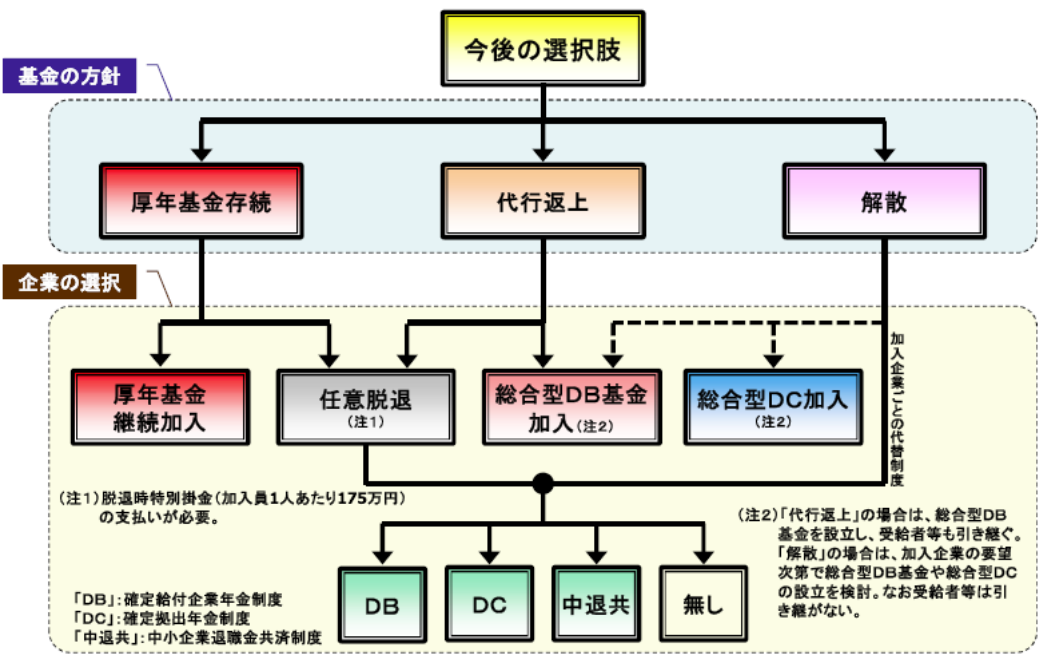
# 確定拠出年金の時代⑥ ～厚生年金基金 ついに大解散時代へ突入！

- 2014年4月からの厚生年金に関する改正法施行で基金解散時代の幕開け
- 大半の基金は代行割れ及びその予備軍
- 各基金の解散決議後、「待ったなし」の制度変更を強いられる事態に

## 6. 厚年法改正法の概要



## 7. 今後の選択肢





# 401kの 基本的仕組み